

Publication:  
Date: 2010.5  
Section/Page: P130  
Size: Full Page  
City: 日本 Japan

## 話題の草場地で、春の写真祭が開催

郊外に広がる20近くの芸術区が、都市開発の波により、立ち退き問題の渦中に置かれ、多くの芸術家がスペースの貸借をめぐるトラブルに巻き込まれている北京。とりわけ、国内外の著名画廊やアート関連企業、作家のアトリエが集中し、艾未未(アイ・ウェイウェイ)設計の名建築も多数擁する草場地の行方は人々の大きな関心の的だ。

その草場地で、中仏文化交流フェスティバルの一環として、今年4月より国際的な写真祭が始まった。主催は、今回の主会場ともなる写真専門の組織、三影堂攝影藝術中心や、欧州で最も重要な写真祭として名を馳せるアルル国際写真フェスティバル、そして思想手計画だ。思想手計画は大山子(798)芸術区の発足と活動にかかわり、初期の大山子国際芸術祭も企画運営して、798芸術区保護の動きに大きく貢献した。

アルル国際写真フェスティバルは40

年の歴史をもつが、その写真展が本国以外で開催されるのは初めて。期間中は草場地内の20余の画廊やアート関連企業が、国内外の優れた写真作品を紹介。出展作家はピエール・ゴノー、ルシアン・クレルグ、畠山直哉、荒木経惟、森山大道、莫毅(モ・イ)など多数。

最初の5日間は、スライドショー、シンポジウム、海外の写真関係者を招いたセッションなどを実施。昨年度の「ディスカバー賞」受賞作の展示も行われた。

この催しの目的のひとつは、草場地の10年間にわたる現代アートの発展の成果を内外に示す、というもの。ただ気がかりなのは、開幕直前に関係者に届いたという取り壊し通知。草場地の芸術的環境を守るため、関係者らは署名活動を始めた(HP参照)。写真祭を通じ、芸術の発信地としての草場地の存在がより強くアピールされるよう、願ってやまない。

## Beijing

北京

多田麻美=文

Text by Asami Tada  
(Freelance Writer)

草場地 春の写真祭 2010

Caochangdi Photo Spring 2010

4月17日~6月30日

草場地内の芸術関連施設(空間と、大山子(798)芸術区のギャラリーの一部

Caochangdi art zone

#155 Caochang-di,

Chaoyang District, Beijing

Tel.+86-10-6432-2663

10:00~18:00

(写真祭開幕週間11:00~23:00)

月休

<http://www.threeshadows.cn/>



左上——莫毅(モ・イ) 私の幻の都市4 1987  
左下——莫毅(モ・イ) 私の幻の都市5 1987  
右上——ルシアン・クレグ ピカソと「羊を抱く男」 1965  
右下——ピエール・ゴノー マリア 2006  
Courtesy of Caochangdi Photo Spring